

第59回 ことう地域チームケア研究会

テーマ

「ACP・意思決定支援」

世話人団体 : 湖東健康福祉事務所・ACPプロジェクト会議メンバー

本日のねらい

- 湖東地域の医療機関と地域の支援者が一体的なチーム支援が行えるよう、関係者がACPの意義を理解し知識を習得することができる。
- 医療機関による取り組みの状況を知り、医療機関と地域との連携について考える機会とする。

ACPとは

アドバンス・ケア・プランニング

患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて、患者の価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標や選好を明確にするプロセスのこと

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。

心身の状態に応じて意思は変化しうるため
繰り返し話し合うこと

主なポイント

本人の人生観や価値観等、できる限り把握

本人や家族等※と十分に話し合う

話し合った内容を都度文書にまとめ共有

本人の意思が確認できる

本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十分な話し合いを踏まえた、**本人の意思決定が基本**

・家族等※が本人の意思を推定できる

本人の推定意思を尊重し、
本人にとって最善の方針をとる

本人の意思が確認できない

・家族等※が本人の意思を推定できない
・家族がいない

本人にとって最善の方針を
医療・ケアチームで慎重に判断

人生の最終段階における
医療・ケアの方針決定

- ・心身の状態等により医療・ケア内容の決定が困難
 - ・家族等※の中で意見がまとまらないなどの場合
- 複数の専門家で構成する話し合いの場を設置し、方針の検討や助言**

※本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性があることから、話し合いに先立ち特定の家族等を自らの意思を推定する者として前もって定めておくことが重要である。
※家族等には広い範囲の人（親しい友人等）を含み、複数人存在することも考えられる。



これまでの取り組み

ACPプロジェクト会議

年度	内容
H30	プロジェクトの立ち上げ 会議開催 2回 ACPの普及啓発のための啓発ちらし、ポスターの作成
R1	会議の開催 4回 9月 医療介護関係者向け意識調査の実施 11月 ことう地域チームケア研究会「意思決定支援」 アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について 寸劇
R2	プロジェクト会議 4回 9月 アドバンス・ケア・プランニング実践研修会の開催 講師:木澤 義之氏(神戸大学医学部附属病院緩和支援治療科) 講演:アドバンス・ケア・プランニング (いのちの終わりについて話し合いをはじめる) 参加者:行政、医療介護関係者 54人 9月 医療介護関係者向け意識調査結果に基づく課題整理 3月 医療介護関係者共通支援ツールの作成

人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか？

もしものときのために

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。

話し合いの進めかた(例)

心身の状態に応じて意思決定は変化する場合があります。何回でも話し合ってください。

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」と呼びます。あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

このような取組は、個人の主体的な行いによって考え、進めるものです。知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/seisaku/advance_care_planning/index.html

湖東地域ACPプロジェクト会議(事務局:湖東健康福祉事務所)

寸劇で学ぼう

「考えさせられる事例」

妻「先生、ご飯を食べないので点滴をしてやってください。きつとよくなると思います」
医師「本人はどう思っていますか」
妻「長生きしてほしいんです。本人もきつとそう思っています」

「良かったと感じられる事例」

医師「今後の過ごし方などについて一緒に考えていきましょう。今のお気持ちを聞かせてください」

治る病気ならどんな治療も受けるけど、苦しみを先延ばしするだけの治療はしたくない。

妻「なにもしてあげられなかった…」

何度も話し合いをしていたこともあり、ご自身の望んだように自宅で最期を迎えることができました。

医療介護関係者意識調査の結果概要

R1年9月実施

項目	主な結果	今後の方向性
①ACPの認知度	<ul style="list-style-type: none">・「よく知っている」「知っている」の回答は、全体で35.1%（診療所医師が14.9% 介護支援専門員が26.4%と低い。）・平成30年3月に改正された「国のガイドラインを知らない」は、全体で68.5%。	<p>考察: ACPを理解し概念を深めることで実践しやすくなる。</p> <p>時期に合わせたACPの実践のための医療介護関係者のスキルアップが必要</p>
②本人との話し合い	<ul style="list-style-type: none">・本人、家族と医療、療養について「よく話をしている」14.3%「一応話をしている」47.5%、合わせて61.8%話をしている。ほとんどしていない9.8%、最終段階に関わっていない15.2%・「行っていない」理由については、「人生の最終段階における話し合いのノウハウがない」23.7%、「人生の最終段階の話を切り出すことに抵抗を感じる」14.9%。	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 国のガイドラインの普及・啓発(2) ACPの知識と実践が結びつく研修会の開催(3) 医療従事者が共通して使えるシートの作成(4) 地域住民に向けた効果的な啓発媒体の検討
③情報共有方法	<ul style="list-style-type: none">・記録に残し、所属内で共有しているは全体で72.2%、外部機関との共有は57.8%で訪問看護師や地域包括支援センターが高い。・外部との情報共有で引き継ぐ情報については、「患者や家族等が希望するケアや療養場所・最後を迎える場所」が42.9%、「治療方針など医療情報」は35.9%。	

情報提供 1

ACP実践の流れ

ACP実践の流れ

プロジェクトチームで作成

ACP実践手順書

ACP実践の流れ

ACP実践記録 ～ケースカンファレンス時に用いる～

ACP実践手順書	患者氏名()		
		一般的なルール	
<ul style="list-style-type: none"> 礼儀正しく、丁寧に 患者・家族の労働体制に応じて役割的でないコミュニケーションを もしも・・・方が・・・という前置きで始める 相手の感情に留意(表情、視線、しぐさ) 感情に気づいたら感情への対応を優先する 最善を期待し最悪に備える ともに希望をもち、ともに心配すること 			
		面接終了時には	
<ul style="list-style-type: none"> 感謝を伝える 継続してもいいと考えていくこと、わからないことはいつでも質問できることを伝える。 			
☆主治医から話し合いを始める			
順番	内容	主な担当	確認日
0	ACPを実践するために医師に働きかける	CM、訪看	
1	ACPを実施する時期	医師	
2	病状の認識を確かめる	医師	
3	話し合いを導入する	医師、CM、訪看	
4	代理決定者を選定する	医師、CM、訪看	
5	代理決定者とともに話し合う	医師、CM、訪看	
6	代理決定者と意思決定を共有する	医師、CM、訪看	
7	療養や生活での不安・疑問を尋ねる	全員	
8	療養や生活で大切にしたいことを尋ねる	全員	
9	経験を尋ねて探索する	全員	
10	いのちに対する考え方を探索する	全員	
11	治療の嗜好を尋ね、最善の選択を支援する	全員	

ACP実践の流れ (全職種共通)		
一般的なルール	礼儀正しく、丁寧に 患者・家族の労働体制に応じて役割的でないコミュニケーションを もしも・・・方が・・・という前置きで始める 相手の感情に留意(表情、視線、しぐさ)	感情に気づいたら感情への対応を優先する 最善を期待し、最悪に備える ともに希望をもち、ともに心配すること
面接終了時には	感謝を伝える 継続してもいいと考えていくこと、わからないことはいつでも質問できることを伝える。 「今日お話ししたことにも少し足りない点も感じてみますね。」 「おたは、○○さんご意向を尊重したうえで、最善の高感ケアができるように一緒に考えていきたいと思います。何か気になることがあったら何でもおっしゃってください。」	
項目	内容	注意点
1	ACPを実施する時期	「この患者さんが何をしたいのかを教えてください。」 患者の意向、希望を確認する
2	病状の認識を確かめる	病状についてのより正確な理解を促す 今後の療養や生活についてより正確な理解を促す ○○さんの病状についてより正確な理解を促す ○○さんの病状についてより正確な理解を促す ○○さんの病状についてより正確な理解を促す
3	話し合いを導入する	話し合いを導入する 話し合いを導入する 話し合いを導入する 話し合いを導入する
4	代理決定者を選定する	代理決定者を選定する 代理決定者を選定する 代理決定者を選定する 代理決定者を選定する
5	代理決定者とともに話し合う	代理決定者とともに話し合う 代理決定者とともに話し合う 代理決定者とともに話し合う 代理決定者とともに話し合う
6	代理決定者と意思決定を共有する	代理決定者と意思決定を共有する 代理決定者と意思決定を共有する 代理決定者と意思決定を共有する 代理決定者と意思決定を共有する
7	療養や生活での不安・疑問を尋ねる	療養や生活での不安・疑問を尋ねる 療養や生活での不安・疑問を尋ねる 療養や生活での不安・疑問を尋ねる 療養や生活での不安・疑問を尋ねる
8	療養や生活で大切にしたいことを尋ねる	療養や生活で大切にしたいことを尋ねる 療養や生活で大切にしたいことを尋ねる 療養や生活で大切にしたいことを尋ねる 療養や生活で大切にしたいことを尋ねる
9	経験を尋ねて探索する	経験を尋ねて探索する 経験を尋ねて探索する 経験を尋ねて探索する 経験を尋ねて探索する
10	いのちに対する考え方を探索する	いのちに対する考え方を探索する いのちに対する考え方を探索する いのちに対する考え方を探索する いのちに対する考え方を探索する
11	治療の嗜好を尋ね、最善の選択を支援する	治療の嗜好を尋ね、最善の選択を支援する 治療の嗜好を尋ね、最善の選択を支援する 治療の嗜好を尋ね、最善の選択を支援する 治療の嗜好を尋ね、最善の選択を支援する

引用: 神戸大学医学部附属病院 緩和ケア診療科 天澤 隆之 氏の講演資料より

ACP実践記録～ケースカンファレンス時に用いる～			
記載日:	年 月 日()	出席者	
項目	内容	自由記載欄	
1	ACPを実施する時期		
2	病状の認識を確かめる		
3	話し合いを導入する		
4	代理決定者を選定する		
5	代理決定者とともに話し合う		
6	代理決定者と意思決定を共有する		
7	療養や生活での不安・疑問を尋ねる		
8	療養や生活で大切にしたいことを尋ねる		
9	経験を尋ねて探索する		
10	いのちに対する考え方を探索する		
11	治療の嗜好を尋ね、最善の選択を支援する		

ACP実践手順書 1

一般的なルール

- ・患者・家族の防衛機制に応じて侵襲的でないコミュニケーションを
- ・もしも・・・万が一・・・という前置きで始める
- ・相手の感情に留意(表情、視線、しぐさ)
- ・感情に気づいたら感情への対応を優先する
- ・最善を期待し最悪に備える
- ・ともに希望をもち、ともに心配すること

面接終了後には

- ・感謝を伝える
- ・継続してともに考えていくこと、わからないことはいつでも質問できることを伝える。

☆主治医から話し合いを始める

ACP実践手順書 2

	内 容	主な担当者
0	ACPを実践するために医師に働きかける	CM、訪看
1	ACPを実施する時期	医師
2	病状の認識を確かめる	医師
3	話し合いを導入する	医師、CM、訪看
4	代理決定者を選定する	医師、CM、訪看
5	代理決定者とともに話し合う	医師、CM、訪看
6	代理決定者と意思決定を共有する	医師、CM、訪看
7	療養や生活での不安・疑問を尋ねる	全員
8	療養や生活で大切にしたいことを尋ねる	全員
9	経験を尋ねて探索する	全員
10	いのちに対する考え方を探索する	全員
11	治療の選好を尋ね、最善の選択を支援する	全員

ACP実践の流れ（全職種共通） 1

	内 容	具体例
1	ACPを実施する時期	「この患者さんが1年以内に亡くなったら驚きますか？」
2	病状の認識を確かめる	<ul style="list-style-type: none">・病状についてどのように説明をうけていらっしゃいますか？・今後の医療やケアについてどのように説明を受けていらっしゃいますか？〇〇さんのお言葉で教えていただけますか？・〇〇さんの病状についてはカルテを読ませていただいたので、大体のことは承知しているのですが、今後のことを相談するために〇〇さんが病状をどう捉えていらっしゃるのか伺いたいと考えています。
3	話し合いを導入する	<ul style="list-style-type: none">・万が一の時のことを考えてお聞きするのですが、前回と同じような状況になった時のことを、病状のために身の回りのことをすることができない状態になった時のことをお考えになったことはありますか？ <p><考えたことがある場合></p> <ul style="list-style-type: none">・もしよろしければ、どのようにお考えになったかを詳しく教えていただけますか？・もしもの時のことについて、これから相談をしていきたいと思うのですが、よろしいでしょうか？ <p><考えたことはないけれど、考えることにあまり抵抗がない場合></p> <ul style="list-style-type: none">・できるだけ今の状態が維持できるようにできるだけ努力しようと思っています。その一方で、もし病状が悪くなったらどうしようと、とても心配になっています。・もしもの時のことについて話し合いをしておきたいと思っているのですが、よろしいでしょうか？ <p><考えたくない あえて考えないようにしている> 別のタイミングを見計らう</p>

	内 容	具体例
4	代理決定者を選 定する	<ul style="list-style-type: none"> ・病状によっては病気の治療やケアについて、ご自分で決めることが難しくなることがあります。 ・そのような場合に、〇〇さんが大切にしていることがよくわかっていて、〇〇さんになりかわって治療などの判断ができる方はどなたになりますか？ ・その方は〇〇さんがこのような気持ちでいることをご存知ですか？ ・その方とご病状や治療について話し合ったことはありますか？
5	代理決定者ととも に話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・もしよろしければ、次回までに* *さんにこのこと(〇〇さんが代理決定者になってほしいと 思っていること)を伝えて、次回一緒にお越しいただけませんか？ ・(代理決定者に対して)患者さんはこのようなお気持ちでいらっしゃいますが、今後、もし病状の ために、意思決定が難しくなった時に〇〇さんの代わりに医学的な決定をすることはできます か？
6	代理決定者と意 思決定を共有す る	<ul style="list-style-type: none"> ・代理決定者が、どのような役割を果たすかについて、医療・ケアチームを含めた話し合いを持 つことが重要 ＜複数の代理決定者がいるとき＞ ・同席してもらう機会を作る ・記録を残し共有 ・録音する

	内 容	具体例
7	療養や生活での不安・疑問を尋ねる	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の病気や治療のことでわからないことや不安なことはありますか？ ・よろしければそのことについて詳しく教えてください。 ・そのことについて、先生に相談したことはありますか？ ・もしよろしければ尋ねてみませんか？ ・もしよろしければ、私から、先生にそのことを話してもらえるようお願いしましょうか？ ・〇〇さんが、このことを不安に思っていることについて主治医の××先生にお伝えしてよろしいですか？
8	療養や生活で大切にしたいことを尋ねる	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や療養の上で一番大切にしていることはどんなことですか？ ・今後どのような治療を受けていきたいか具体的な希望はありますか？ ・逆にこれだけはしてほしくないということはあるですか？ ・それはどうしてですか？具体的に教えてください。
9	経験を尋ねて探索する	<p>＜以前に経験がある場合の尋ね方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万が一、前回と同じような状況になった時に、〇〇さんのお考えに沿って医療・ケアを進めるために、〇〇さんの療養についてのお考えを伺っておきたいと思っています。 ・もし前回と同じような状態になった場合にどのように医療・ケアを進めてほしいか、何か具体的な希望はございますか？ ・どのようなことが一番ご心配ですか？ ・これだけはしてほしくないということがあったら具体的に教えてください。 ・なぜそのようにお考えか詳しく教えていただけますか？

9	経験を探ねて探索する	<p><以前に経験がなく一般的な例示をする場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・病状が進むと意識が薄れてご自分の意思を伝えることが難しくなることがあります。 ・万が一のために病状のために身の回りのことができなくなった時のことについて話し合っておきたいと思っています。そのような時はどこでどのように治療・療養をするか考えたことはありますか？ ・そのような場合に何か具体的な希望はありますか？ ・そのような場合に一番心配なことはどんなことですか？ ・そのような場合に、これだけはしてほしくないということがあったら具体的に教えてください。 ・なぜそのようにお考えか詳しく教えていただけますか？
10	いのちに対する考え方を探索する	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えることができないうらい病状が悪化し、改善の見込みがない場合、どのような治療を望みますか？ <ul style="list-style-type: none"> ・延命に重点を置く（ICUへの入室、気管挿管、人工呼吸をする） ・基本的、一般的な内科治療（ICUへの入室、気管挿管、人工呼吸はしない） ・延命は考えず、快適に過ごすことに重点を置く ・それはどうしてですか？
11	治療の選好を探ね、最善の選択を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは〇〇さんの希望に沿った医療を行えるように努力していこうと思っています。 ・現在の病状は、、、 ・今後起きうる状態としては、、、 ・具体的な治療の選択肢は、、、 ・それぞれの治療のメリットとデメリットは、、、 ・書面などに書きながら具体的に ・今後の治療の希望とその理由 ・してほしい事／してほしくない事とその理由 ・どこで療養したいかとその理由